お便り日和

テーマ「20歳の私」

20歳の私

ストレッチマン（泉町）

成人式を思い出す。ハタチと言われ、未熟なのに大人であるべきと言われ、精神が年齢に追いついていなかったように思う。くすぐったい感じだった。

地元の友人と語らい、帰宅は深夜。社会に出る前の僕らは、なんだか恥ずかしい議論めいたものをしていたような気がする。

仕事に追われる毎日。残るライフイベントはいくつか、指折り数える。あの時感じていたくすぐったさは、ハタチでしか味わえない、特殊で大切なものだったと思う。

誰もが思うこと

素直になれない娘（土岐津町）

20歳になって一番にしなければならなかったのは、親への感謝。何でも自分でできると勘違いしていた私は、それをきちんとしてこなかったように思います。

家を出て、親のありがたさを実感している毎日。ようやく少しだけ大人になり、実家に帰った時は感謝の気持ちをきちんと伝え、たくさん甘えようと決めています。20歳の頃の私は理想の娘ではなかったかもしれないけれど、目指して頑張っているから、もうちょっと待っててね。

成人式の着物

K（肥田町）

今年も各地の成人式の様子がテレビに映し出されているのを見ていたら、きれいな着物姿の女性が目立っていました。高学歴の昨今、20歳で働いている人は少ないので親掛かりなのでは？と思いました。

45年前、7人兄弟の私は「高校へ行かせたので後は自分で」と言う父の言葉を当然のことと思い、高卒初任給が2万円以下の時代に貯蓄に励み、成人式に10万円の着物を自分で購入。でも家にご飯代を入れていなかったので甘え度は昔も今も同じ？

夜歩く

雪見だいふく

20歳のころは、毎夜友人と街を歩き回っていた。私のダイエットに、暇をもて余していた友人が付き合ってくれたのだ。二人で線路沿いを歩いて「まるで映画のスタンド・バイ・ミーみたいだな」などと、他愛もない話をしながら、飽きずに毎日歩いた。今はお互い仕事も忙しく、年に数回会えるかどうか。それでも、二人で夜の街を歩いたら、性懲りもなく他愛ない話をするのだろう。その時は20歳のころを二人で振り返りたい。

きままに川柳

お題「雪」

雪のソチ待っていますよ金メダル　佐竹マスお

楽しげに小雪とたわむる愛犬や　足立昌代

粉雪の舞う初春やすがすがし　一恵

真っ白な御岳望み墓まいり　ラン

旅先の温泉で見る雪景色　チャム

雪の舞う始発の駅は皆無ロ　小阪千枝子

雪どけへ希望に萌える春みつけ　つね代

雪かぶる恵那山遠く輝いて　ジョージ

3月1日号の投稿募集

お便りテーマは「忘れちゃいました」です。ぼんやりしてつい忘れてしまったことなど、あなたのうっかり話を200字以内（タイトル別）でお寄せください。

川柳のお題は「マスク」です。（1人1句）

締め切りは2月17日（月）です。

■応募・問い合わせ

住所・氏名またはペンネームを明記し、秘書広報課広報広聴係へ。

〒509-5192（住所不要）

☎㊹1111（内線185）／FAX㊺7763

koho@city.toki.lg.jp

※応募多数の場合は採用されない場合があります。また、お便りについては、採用に当たり趣旨を変えない程度で表現を変更する場合がありますので、ご了承ください。掲載の際に投稿者へのご連絡は行っていません。